

宮崎兄弟資料館だより

2016/03/31

シンガポール孫中山南洋紀念館・晚晴園を訪問 —レプリカ交換式—

平成28年1月、シンガポールの孫中山南洋紀念館において、史料のレプリカ交換式を行いました。これは、平成26年9月に荒尾市宮崎兄弟資料館とシンガポール孫中山南洋紀念館とのあいだで調印した「基本協定書」にもとづいて行ったもので、それぞれが所蔵する宮崎滔天の著書『三十三年之夢』のレプリカを交換しました。



▲レプリカを交換する山下慶一郎荒尾市長（左）と白南泉晚晴園董事（右）

○孫文と滔天の友情の証『三十三年之夢』

今回レプリカ交換をするにあたり、両館の交流を記念する史料としてふさわしいものは何か、晩晴園と協議を行いました。「孫文の扁額はどうか」等の意見も交わされましたが、最終的に「孫文と宮崎滔天の友情の歴史にならって交流をしているのだから、滔天が孫文の革命運動を支援したなかでも、特に大きく貢献することとなった『三十三年之夢』がふさわしいのではないかと結論付け、荒尾市からは『三十三年之夢』（明治35年発刊）のレプリカを、晩晴園からは『三十三年落花夢』（中国語翻訳、1925年発刊）のレプリカを交換することに決定しました。

『三十三年之夢』とは、1901年の惠州蜂起に武器輸送などで失敗したあと、革命の第一線から退いた滔天が、自らの革命活動に捧げた半生をつづった著書です。好評を得たこの本は、翌年には中国語に翻訳され、孫文のもとに中国革命を志す同志が集まるきっかけとなるなど、孫文の革命運動を大きく推進する役割を果たしました。



▲『三十三年之夢』（明治35年発刊、左）と『三十三年落花夢』（右）

○ 晩晴園との今後の交流について

今回の訪問では、今後の交流事業の内容についても協議しました。今後は、学术交流を促進していくことを確認し、その成果報告として共同報告書を刊行すること等について意見交換を行いました。「孫文とシンガポール、宮崎滔天とシンガポールとの関係」や「シンガポールと近代日本とのつながり」など、歴史的にどのような交流がなされてきたのか、荒尾とシンガポールがどのようにつながるのかを検証し、多くの方に分かりやすいようなかたちでまとめることが出来ればと考えています。



▲晩晴園にて今後の方針について協議

宮崎兄弟研究事業

—経過報告④—

荒尾市教育委員会では、平成26年度～平成28年度の三カ年にわたって、宮崎兄弟に関する研究の一層の促進を目的とする「宮崎兄弟研究事業」に取り組んでいます。

今年度は、

- ①宮崎兄弟の生家所蔵・寄託史資料の目録整理
- ②宮崎兄弟に関する研究

の二つの課題に取り組みました。

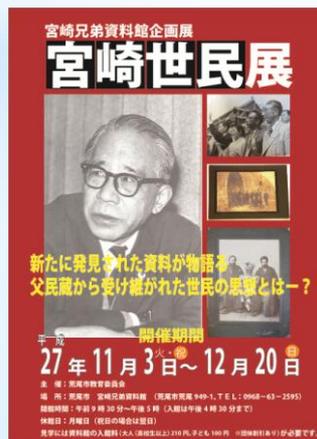
①〔史資料の目録整理〕

宮崎民蔵と滔天のひ孫にあたる宮崎芳氏が所蔵する宮崎兄弟及びその子どもたちにまつわる史資料の目録作成とその中身について、荒尾市教育委員会は約一年にわたって調査を行いました。史資料の数はおよそ440点。特に宮崎民蔵とその子である世民・世龍・貞ゆかりの資料が大半を占めていました。

調査の結果、これらの史資料は宮崎民蔵だけでなく、その子どもたちが宮崎家という家に生まれ、どのように生き、活動したのかを示す貴重な品々であること、特に世民については、その著『宮崎世民回想録』に記されていた彼の活動を裏付ける記録や写真が発見されるなど、これまで明らかにされていなかった宮崎家の新たな歴史の一面を伝える史資料であると考えられました。

そのため、この調査結果の一部を企画展「宮崎世民展」として、平成27年11月3日（火・祝）～12月20日（日）まで宮崎兄弟資料館にて開催しました。

企画展では、世民の生涯を追いながら、宮崎家という家庭に生まれ育ったことが、彼の思想形成にどのような影響を与えたのかを紹介しました。大逆事件や第二次世界大戦に出兵するなど、近代日本の渦中に巻き込まれながらも、戦後、いまだ国交が回復していない時期に日中間の架け橋となって奮闘した世民の生涯は、まさに自由民権運動、



▲世民展のポスター

人権回復のために奔走した「宮崎兄弟」の思想を継承するものであったことを紹介しました。

1955年に訪中した際、宋慶麗（左から2番目）と接見したときの写真



②〔宮崎兄弟の研究〕

今年度二年目を迎える宮崎兄弟研究事業は現在、最終年である平成28年度に向け、まとめ作業に入っています。この研究成果は最終的には報告書として刊行する予定で、これまでの宮崎兄弟に関する先行研究を整理しながら、今日の世界において宮崎兄弟がどのように評価出来るのか、さらに宮崎兄弟の子どもたちの活動について、平成26年・27年に開催した「宮崎龍介展」・「宮崎世民展」の成果も取り上げ、現代における宮崎家の思想の価値を描き出す予定です。

宮崎兄弟や宮崎滔天に関する研究は、上村希美雄氏の『宮崎兄弟伝』や渡辺京二氏の『評伝 宮崎滔天』などに代表されるように、すでに1990年代から2000年代までの間に、その思想や活動について詳述されてきました。しかし、宮崎兄弟資料館の展示内容をみますと、開館の1995年以後、内容はほとんど変わっていないのが現状です。さらに、その内容は難解で、特に子どもたちには馴染みにくいものであったように思います。資料館として学術的な価値は担保しながらも、郷土の誇りとして市民、さらに言うならば、次世代を担う子どもたちに親しみをもってもらい、その歴史から未来を展望するような足がかりをつくることが重要な責務ではないかと考えています。

宮崎兄弟に関する研究をまとめ、その歴史的価値を描き出す学術的作業を進めながら、宮崎滔天をはじめとした宮崎兄弟やその子どもたちと中国の革命家たちとの交流の歴史から、グローバル化が進展する現代に適應できる人材育成にも資するなど、教育面にも今後展開していけるよう、より一層、事業を進めてまいります。今後も、「資料館だより」を通じて、その成果の一部をお伝えしていきますので、どうぞご注目ください。

・ 10/3 JR九州歴史探訪ウォーキング大会

毎年JR九州が主催している催しで、今年の荒尾駅のコース内容は、世界遺産になった「万田坑」と「炭鉱専用鉄道敷跡」、宮崎兄弟の生家などをめぐるので、天候に恵まれた当日、生家には262名の方が訪れました。



・ 10/31 第3回荒尾市史講演会

平成25年に荒尾市が刊行した『荒尾市史 通史編』の内容についてご紹介する講演会の第3回目には、自由民権運動をしながら玉名郡内の農業畜産業の改良に取り組むとともに、二度にわたって荒尾町長を務めた余田末人（よでんすえと）と、宮崎兄弟の一人・民蔵とその子どもたちについて、猪飼隆明元荒尾市史編集委員長に講演いただきました。

当日は約50名の参加者があり、また余田家と宮崎家のご子孫にも参加いただくなど、とても盛り上がりました。



・ 11/3～12/20 企画展「宮崎世民展」

宮崎兄弟の子どもたちにスポットをあてた企画展第二弾。昨年はNHKの連続テレビ小説「花子とアン」から注目が集まった宮崎滔天の長男・龍介について紹介する企画展を開催しましたが、今年はその龍介に劣らず日中友好のために活動した民蔵の次男・世民について紹介しました。



・ 12/6～12/27 「推心置腹—孫文と宮崎滔天」史料展

平成25年1月から3月に上海孫中山故居記念館・熊本県等と共催で上海で開催した企画展「孫文と日本友人宮崎滔天—学術交流活動および史料展」を、熊本で再現。荒尾市日中友好促進会議が主催となり、荒尾総合文化センターとくまもと県民交流館パレアの二会場で開催されました。

李天然福岡総領事や宮崎黄石氏らによるテープカットで開幕した本展は、滔天と孫文、またその他の革命家たちとの友情の深さを示す貴重な史料のレプリカが展示され、1,059名の来場がありました。



・ 12/6 滔天忌俳句大会

51回目を迎えた今年も、347句の投句があり、当日参加者も46名を数えました。

天賞には佐藤房枝氏（荒尾）の「黒雲の走る夜明けや滔天忌」が選ばれました。



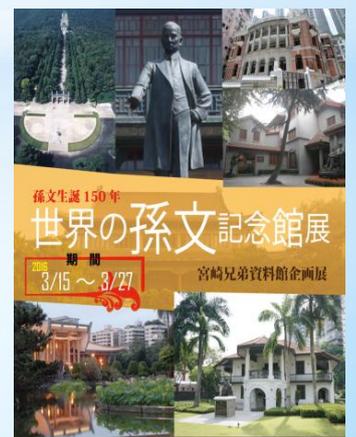
・ 1/22 文化財防火デー「防火訓練」

毎年1月26日は「文化財防火デー」で、日本各地で防火訓練が行われます。今年も宮崎兄弟の生家施設では荒尾消防署の協力を得て、通報訓練をはじめ、消火器や放水銃を使って消火訓練を行いました。



・ 3/15～27 孫文生誕150年記念企画展「世界の孫文記念館展」

平成28年（2016）年は孫文が生まれてから150年の記念の年です。そこで「孫文生誕150年記念企画展」として、孫文の生涯について紹介しながら、近年、荒尾市が交流している国内外の孫文関連施設との交流について紹介するパネル展を開催しました。



・3/26、3/27 第22回「春の華展」

今年も色鮮やかな花々が宮崎兄弟の生家を彩りました。当日は少し風が冷たかったですが、天候も良く、熊本市内などからも来場いただきました。27日には、体験教室も行われ、参加者から「日頃経験出来ない華道の基本について教えていただき、とても楽しかったです。」という声が聞かれました。



<今後の予定(4月1日～)>

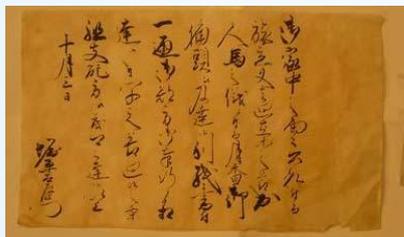
- ・第22回 牡丹茶会(4月10日)
- ・第3回 牡丹文芸・美術展(5月10日～6月5日)
- ・第39回 夏休み少年少女俳句教室
(7月下旬～8月初旬)
- ・第3回 夏休み子ども教室(7月下旬)
- ・第11回 音と光の祭典(9月下旬)

※その他、企画展「孫文と荒尾展」の開催を計画しています。詳細については荒尾市教育委員会(☎0968-63-1681)までお問合せください。

※皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております!

資料紹介 ③

堀平太左衛門からの達し



熊本藩8代藩主・細川重賢の「宝暦の大改革」で大奉行として活躍した堀平太左衛門(ほりへいたざえもん)からの通達文。この改革では、「地引合」(土地と

検地帳を1筆毎に引き合わせる)と呼ばれる検地などが行われ、年貢の公正な徴収が図られました。

施設紹介①

愛知大学東亜同文書院大学記念センター (愛知県・豊橋市)

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、宮崎兄弟と同じく、孫文の革命運動を支援した山田兄弟ゆかりの資料などを保存・展示・研究する施設です。

愛知大学は、敗戦により閉校となった東亜同文書院大学最後の学長・本間喜一らによって1946年に創立されました。1991年、山田兄弟のご遺族より孫文に関する多くの資料が愛知大学に寄贈されたことをうけ、記念センターが誕生。現在、孫文関連の主な史資料約600点をはじめ、東亜同文書院や愛知大学の歴史に関するものも含めて5,000点以上の史資料を所蔵しています。その一部を愛知大学記念館(旧大学本館)で一般に公開展示するとともに、国際シンポジウムの開催をはじめ、さまざまな形で研究を推進しています。



愛知大学記念館

～編集後記～

「文化の秋」と言いますように、歴史・文化施設である宮崎兄弟の生家施設の秋は、毎年イベントがたくさん行われ、来場者が多くとても賑やかになります。冬になると、寒くなるためでしょうか...秋とは一転、来場者の足が遠のきがちになり、少し静かになってしまっているのですが、今年の冬はさまざまな関連行事が行われ、さらにシンガポール・晩晴園との交流など、いつもより慌ただしく、あつという間に時が駆けぬけて行ったように思います。

現在、宮崎兄弟に関連する事業はまさに拡大の一途にあり、荒尾市内、熊本県、日本を超えて、海外との交流にまで発展して来ています。海外に行き、孫文の関連施設の方々とお話をさせていただくたびに、宮崎滔天をはじめ宮崎兄弟の活動が、当時において如何に稀有で、今日にあっても価値あるものであったかを感じさせられます。また、「中国の近代革命を推し進めた孫文という歴史的偉人の活動を支援した」ということもですが、宮崎家に綿々と続く自由民権的なアジア連帯の思想は、国際化が進展するなかで、とても先見的なものであり、そうした価値・魅力が今なお人々をひきつけているように思われます。

今年は孫文の生誕から150年の年、そして2017年は孫文と宮崎滔天が会ってから120年の節目の年です。これからも荒尾市は宮崎兄弟の顕彰活動に積極的に取り組み、次代にしっかりと引き継げるよう、先人から預かったバトンを握って走り続けていきたいと思います。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」5号は、2016(平成28)年10月に発行予定です。

内容は、

- (1) 宮崎兄弟研究事業 経過報告⑤
- (2) 生家だより No.5
- (3) 資料紹介④
- (4) 施設紹介②

を予定しております。その他、何か掲載内容についてご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: mai.33413@city.arao.lg.jp

(担当: 野田【荒尾市教育委員会】)